

1. 土木技術支援・人材育成センター一般公開の活性化

Revitalization of the Opening of Civil Engineering Support & Training Center,
Tokyo metropolitan Government to the Public

技術支援課 尾上靖

1. はじめに

本論では、来場者が少なく停滞気味であった、土木技術支援・人材センター（以下、センターという）一般公開（以下、センター公開という）の活性化を試みた事例を紹介する。

2. センター概要

(1) 沿革

当センターは、平成 21 年の設置である。

その前身は、土木に関する試験研究を通じて、技術情報の蓄積・提供や技術支援を行ってきた 84 年の歴史を有する土木技術研究所である。

業務の外部移管や組織の見直しから、職員定数はこれまで減少してきた。

(2) 所管業務

東京都建設局は、道路、河川、公園の都市基盤整備・維持管理を所管している。当センターは、建設事務所と並んで東京都建設局の出先事業所の一つであり、技術支援及び人材育成を主要業務としている。技術支援業務は、建設局所管事業を進めるうえで、発生する土木技術上の課題や問題の解決するものであり、人材育成業務は、技術研修や技術継承を行い、技術職員の能力開発を行うものである。

(3) 組織

当センターは、江東区新砂に所在し、センターの所管する業務を 1 課 13 係 38 名の職員で行っている。

3. センター公開とは

(1) 目的

当センターが土木技術研究時代を含め、長年培ってきた技術や知見を展示すると共に、体験イベ

ントコーナーも設け、一般の方に土木に触れていただくことを目的としている。

また、当センターにとって、センター公開は住民にセンターの成果を直接示すことができる貴重な機会でもある。

(2) 内容

4 月の科学技術週間、11 月の土木の日に合わせて年 2 回開催している。

平成 26 年 4 月の開催時では、表-1 に示す 2 種類の体験イベントと 7 種類の展示を 13:00~16:30

表-1 平成 26 年 4 月センター公開 内容

土木体験イベント	
	レンガで橋を作ろう
	鉄筋の引張・コンクリート圧縮試験
展 示	
	河川環境の測定器とパネル展示
	アーカイブ資料の展示（写真・展示・パネル）
	環境にやさしい舗装
	東京の地盤（地質図、地質断面図の展示ほか）
	東京の液状化予測図の展示
	地下水位観測機器及び観測データのデモ
	公共基準点・水準測量の機器
特別イベント	
	勝鬨橋の解説映画

に行った。また、特別イベントとして、新たに発見された勝鬨橋建設当時のフィルムをもとにした解説

映画の放映を行った。

鉄筋の引張・コンクリート試験は、当センターの庁舎に所在する公益財団法人東京都道路整備保全公社の材料試験センターが協力して行われている。

体験イベント・展示では職員が、来場者一人ひとりに丁寧に説明することが特長である。

(3) 関連行事

センター公開に合わせて、当センターが担当する新任研修、近隣小学校連携事業がある。このなかで、特に新任研修は、研修時間がセンター公開と一部重なるため、工夫する必要があった。

1) 新任研修

4月のセンター公開時には、センター公開の前後の時間に、建設局新規採用職員を対象に、センター公開展示の一部を用いてセンター職員が講師となり研修を実施している。

平成26年4月の研修生は141名であった。

2) 近隣小学校連携事業

11月のセンター公開日の午前中に「土曜の日」の関連行事として当センター近隣小学校と連携し、5年生を招待し体験授業を行っている。

平成25年11月の体験事業授業参加者は68名であった。

4. 来場者数の少なさと活性化の実施

平成25年4月開催センター公開では一般の来場者は2名であった。また、開催の告知PRも江東区報に掲載する程度であった。

このため活性化を実施することとし、まず、平成25年11月開催のセンター公開に向け開催告知PR策を立案実施し、集客を図ることとした。次に、平成25年11月から平成26年2月までプロジェクトチームによる検討を行った。

(1) PR策の立案実施

集客のため、開催告知のPRは必須であるが、予算がついているわけではないため、自主媒体の当センターのホームページや建設局Twitter、Facebookが使用することとした。

さらに、手作りのチラシ・ポスターの訴求力を高めることに努めた。また、告知してくれそうな広報媒体を選定するとともに、できるだけタイムリーに

PRするようにした。

1) キャラクターの採用

① 目的

センター公開の開催告知用チラシやポスターの訴求力を高めるとともに、手にとって持って帰っていただけるようなチラシにするために、キャラクターを採用することとした。

② 選定と制作

当センターを土センと略称することがあり、センから「洗^{せん}」さらに「洗^{あら}う」を連想し、東京都知事部局の保護帽を被ったアライグマをベースにキャラクターを作成しようと考えた。しかし、制作者が、描いているうちに、ビーバーになった(図-1)。



図-1 キャラクター

ビーバーはダムを作ることから、自然界の土木技術者というべき動物であり、キャラクターにふさわしいと考えた。

アライグマについては、ラスカルという非常に認知度が高いキャラクターが存在しており、結果的にはビーバーで良かったと考えている。

東京都土木技術支援・人材育成センター

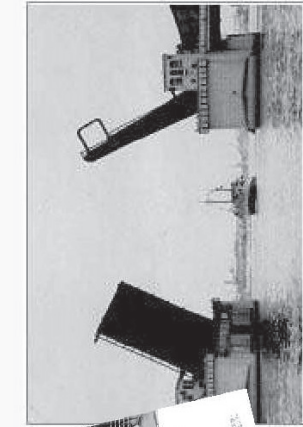
4月18日(金) 一般公開

入場無料

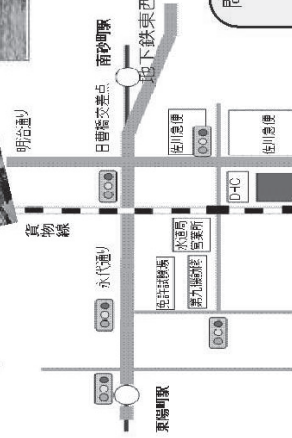
平成26年度 科学技術週間 13:00~16:30

先着200名様限定!

写真集「東京の情景」さしあげます



**勝鬨橋の
解説映画を公開
建設当時のフィルム発見!**
13時から30分ごと放映



問い合わせ先

東京都土木技術支援・人材育成センター
技術支援課管理係
03-5683-1512
江美区新砂1-9-15

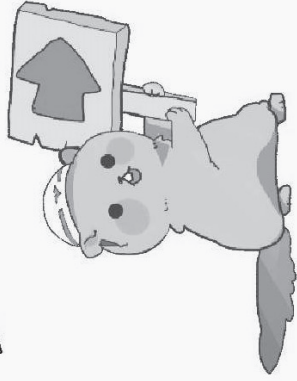
協力：(公財)東京都道路整備保全公社

(地下鉄東西線東陽町駅下車徒歩15分・南砂駅下車徒歩10分)

ホームページ <http://doboku.metro.tokyo.jp/>



土木の世界に触れてみませんか!



レンガで橋を作ろう

◎土木体験イベント

レンガで橋を作ろう (アーチ橋の原理実験) 14:00~

鉄筋の引張試験・コンクリート圧縮試験 15:00~

協力：(公財)東京都道路整備保全公社

◎土木技術教室

河川環境の測定機とパネル展示

環境にやさしい舗装 (ヒートアイランド対策)

アーカイブス資料の展示 (写真・図面・パネル)

東京の地盤 (地質図、地質断面図の展示ほか)

地盤液化化の資料 (液状化予測図ほか)

地下水位観測機器および観測データのデモ

公共基準点測量・水準測量の機器ほか



東京都土木技術支援・人材育成センターは、工事現場等における様々な課題に関する技術支援や土木技術の担い手職員の人材育成に取り組んでいます。
一般公開は、当センターが長年培ってきた技術やさまざまな知見を多数展示すると共に、アーチ橋原理実験等の参加型実演コーナーも設け、一般の方にも気軽に土木に触れていただく機会として、毎年4月と11月に開催しております。

図-2 平成26年4月センター公開開催告知チラシ・ポスター

2) 広報媒体の選定

① 新聞

東京都には本庁に都庁記者クラブがあり、そこにセンター公開開催について情報提供する方法もあるが、他の情報に紛れて、取り上げられる可能性は小さいと考えた。そこで、当センターに距離的に近い新聞支局にセンター公開開催告知チラシ（図-2）を持ち込み、取り上げてもらうよう依頼した。

この結果、持ち込んだ3社のうち、全国紙1社、地方紙1社が取り上げ、開催の告知をしてくれた。

② 地元ケーブルテレビ

地元のケーブルテレビでは、自主放送で地域情報を取り上げている。そこで、センター公開開催について情報提供したところ、開催の告知はしないが、センター公開開催時に取材に来ていただけることになった。

平成25年11月のセンター公開については、3分間、平成26年4月のセンター公開では10分間の番組として放映していただくことができた。

この放映は、今後のセンター公開の集客につながると考えている。

3) PR活動計画の策定

開催告知PRは、広報媒体への情報提供とともに、近隣の公共公益施設等でのポスター掲出やチラシを置いていただくことを依頼したほか、江東区報への掲載依頼などを行った。

ただ、あまり早く告知PRをしても、忘れられてしまったり、逆に、遅いと来場者に予定が入ってしまい、来られなくなったりする恐れがある。また、江東区報などでは、掲載申込期限もある。そこで、できるだけタイムリーになるよう、PR活動計画を作り、それにしたがって、活動するようにした（表-2）。

例えば、建設局Twitterについては、リツイートによる拡散を期待して、24日前に登載するようにし、新聞支局や地元ケーブルテレビには、14日前に情報提供を行った。

表-2 平成26年4月センター公開 PR活動計画

残日	日	曜日	活動
45	3月4日	火	江東区報 申込期限
25	3月24日	月	センターホームページ登載
24	3月25日	火	局 Twitter・Facebook 登載
23	3月26日	水	近隣施設等PR
22	3月27日	木	近隣施設等PR
17	4月1日	火	東京都建設局防災ボランティアにPR
16	4月2日	水	江東区土木部ほかPR
15	4月3日	木	江東区広報板 申込期限
14	4月4日	金	新聞支局、地元ケーブルテレビ、江東区広報番組にPR
0	4月18日	金	庁舎玄関にセンター公開の看板設置

(2) プロジェクトチームの設置

プロジェクトチーム（以下、PTと言う）を設置し、その議論の中で、センター公開開催にかかる問題点を抽出、対応方策を案出し、平成26年2月にまとめることとした。

その後、係長会等で更なる方策の検討・具体化していくこととした。

PTのメンバーは技術支援課長のほかに、センター公開の展示を担当する係長を選んだ。

以下にPTの検討結果のまとめの抄録を示す。この検討結果は、職員に周知し、一部の方策は実行した。

1) センター公開の定義・目的

PTでの検討にあたり次の文句をセンター公開の定義・目的とした。

- 当センターが長年培ってきた技術や知見を多数展示すると共に、アーチ橋原理実験等の参加型実演コーナーも設け、一般の方に土木に触れていただく機会

この文句は、平成25年11月のセンター公開チラシから引用したものである。また、この定義・目的は、

- センター公開が、センターの成果を広く発信する重要なセンターの活動であり、センターのプレゼンスをアピールするものであること
- 来場者として、一般の方をターゲットにすること

を示すものである。

2) PTにおける目標設定

- 科学技術週間、土木の日にあわせ年2回センター公開を開催する。
- 前向きに取り組める、やりがいがある、活力ある職場作りにつながるセンター公開にする。

センター公開が住民との貴重な触れ合いの機会であることから、従来どおり年2回実施することを目標とした。また、センター公開に前向きに取り組めるようにし、やりがいを感じられ、活力ある職場作りにつながることをもうひとつの目標とした。

なお、PTでは当初、目標として来場者数を設定して検討を行った。しかし、検討を進めていく中で、来場者にアテンドし、丁寧に説明することがセンター公開のよいところであるし、たくさんの来場があっても収容スペースに限りがある等により対応できないことから、来場者数を目標として設定しないこととした。

3) 目標達成のための方策

- ① 4月、11月にセンター公開を年2回行うこと
の位置づけを明確化し、差別化を図る。

これまで、科学技術週間の「日本の科学技術の振興を図り、科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深める」、土木の日の「社会資本整備の意義と重要性について幅広いコンセンサスを形成していく」という趣旨を4月、11月の開催のセンター公開にそれぞれ位置づけていた。

これに加えて、4月、11月開催のセンター公開の差別化を図るため、4月のセンター公開では、新任研修を合わせて開催し、11月のセンター公開では、小学生体験授業を合わせて開催することを位置づけることとした。

② アンケートの実施

国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所の一般公開を参考にして、アンケートを実施し、来場者へ良かった点や悪かった点などをたずねる。その結果を、センター職員にフィードバックすることにより、展示の改善や職員への動機付けなどにつながっていくことが期待できる。

③ 業務委託の導入

センター公開に伴う業務量の軽減や展示の充実を図るため、業務委託の導入を検討する。委託する業務の例としては、パネルの製作補助、展示物設営・撤収補助、説明業務がある。

④ 一般公開と新任研修の同日開催に伴う工夫

一般公開と新任研修を別の日に行う案も考えられたが、日常業務に影響することから、同日開催とした。

そのため、一般公開向けの展示と、新任研修向けの展示を、時間により分けるなど工夫を行い、一般来場者と研修生が重複しないようにしていく。

⑤ PRの継続実施・PR方法の改善による集客数の確保

平成25年11月開催の一般公開に向けて行ったPR活動を今後継続していく。

また、新たなPR方法の導入などPR方法の改善を図っていく。たとえば、土木学会関東支部のメールマガジンでの告知、センター近隣の都営住宅でのポスター掲示などが考えられる。

4) 今後に向けて

係長会などにおいて、このまとめで提示した方策の具体化に向けた作業を行うとともに、新規展示の案出や展示・係間の連携を強化し、より良いセンター公開にしていく。

5. アンケート

先述したPTでの検討結果に基づき、平成26年4月のセンター公開では来場者を対象にアンケートを



『平成26年度科学技術週間 一般公開』アンケート

本日は、東京都土木技術支援・人材育成センターの一般公開にご来場いただきありがとうございます。

このアンケートは、次回の一般公開をより良いものにするために実施するものです。いただいた回答は他の目的には使用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせください。

- Q1 1. 男性 2. 女性
- Q2 1. 10代未満 2. 10代 3. 20代 4. 30代 5. 40代
6. 50代 7. 60代 8. 70代以上
- Q3 どちらにお住まいですか？
1. 江東区内 2. 東京都内 (区・市・町・村)
3. 東京都外 (道・府・県 市・町・村)
- Q4 一般公開の開催を何でお知りになりましたか？ (複数回答可)
1. ホスター (どこにはってありましたか？)
2. チラシ 3. ホームページ 4. 知人からの紹介
5. 玄関の看板を見て 6. その他 ()
- Q5 「東京都土木技術支援・人材育成センター一般公開」に来られたのは何回目ですか？
1. 初めて 2. 2回目 3. 3回目以上
- Q6 面白かったイベント・展示は何ですか？ (複数回答可)
1. レンガで橋を作る 2. 鉄筋の引張試験・コンクリート圧縮試験
3. 河川環境の測定機とパネル展示 4. 環境にやさしい舗装
5. アーカイブス資料の展示 (写真、図面、パネル)
6. 勝間橋の解説映画 7. 東京の地盤 (地質図、地質断面図展示)
8. 東京の液状化予測図の展示
9. 地下水位観測機器及び観測データのデモ
10. 公共基準点測量・水準測量の機器

裏面へ続きます。 ➡

- Q7 面白かった理由を教えてください。
回答例：説明がわかりやすかった など

- Q8 つまらなかつたイベント・展示は何ですか？ (複数回答可)
1. レンガで橋を作る 2. 鉄筋の引張試験・コンクリート圧縮試験
3. 河川環境の測定機とパネル展示 4. 環境にやさしい舗装
5. アーカイブス資料の展示 (写真、図面、パネル)
6. 勝間橋の解説映画 7. 東京の地盤 (地質図、地質断面図展示)
8. 東京の液状化予測図の展示
9. 地下水位観測機器及び観測データのデモ
10. 公共基準点測量・水準測量の機器

- Q9 つまらなかつた理由を教えてください。
回答例：説明がわかりにくかった など

- Q10 今後やってほしい企画がありましたら、お書きください。

- Q11 その他お気づきの点、改善してほしい点、ご意見等があれば、ご自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。
またのご来場をお待ちしています。

実施した。このアンケート結果については、職員に周知したところである。

(1) アンケート質問項目 (図-3)

- ① 性別
- ② 年齢
- ③ 居住地
- ④ 一般公開を何で知ったか
- ⑤ 来場は何回目か
- ⑥ 面白かったイベント・展示
- ⑦ 面白かった理由
- ⑧ つまらなかったイベント・展示
- ⑨ つまらなかった理由
- ⑩ 今後やってほしい企画
- ⑪ その他気づいた点、改善してほしい点、ご意見等

(2) アンケート結果

来場者数 82 名のうち、46 名の方にアンケートに回答していただいた。主な回答を抽出すると次のとおりである。

1) 面白かったイベント・展示、理由

面白かったイベント・展示のアンケート結果は表-3 のとおりである。

また、面白かった理由を回答してくれた人は、35 名であり、その回答は、

- 丁寧でわかりやすい説明だったから (8 名)
- パネルがきれいで見やすかった (1 名)
- 写真・図面など分かりやすかった (1 名)

などであり、センター公開の面目躍如というべきうれしいコメントがあった。

また、丁寧でわかりやすい説明だったからという回答が 8 名であったが、わかりやすかった、わかった、理解できた、知ることができたなどの、新たな知識を習得できたことを理由に挙げた方は、17 名いた。中には「〇〇さん (でしたっけ?) の説明が分かりやすかった」と、具体的な職員名を挙げている人もいた。この結果から、モデル、写真、図などを併用しつつ、丁寧に説明することが大切であると考えている。

表-3 面白かったイベント・展示 集計結果

(複数回答可)

順位	イベント・展示	人
1	勝鬃橋の解説映画	27
2	レンガで橋を作ろう	15
2	鉄筋の引張・コンクリート圧縮試験	15
2	東京の地盤 (地質図・地質断面図の展示ほか)	15
5	アーカイブ資料の展示 (写真・展示・パネル)	14
6	環境にやさしい舗装	12
7	東京の液状化予測図の展示	9
8	地下水位観測機器及び観測データのデモ	7
8	公共基準点・水準測量の機器	7
10	河川環境の測定器とパネル展示	5

2) つまらなかったイベント・展示、理由

つまらなかったイベント・展示のアンケート結果は表-4 のとおりである。

表-4 つまらなかったイベント・展示 集計結果

(複数回答可)

順位	イベント・展示	人
1	河川環境の測定器とパネル展示	5
2	鉄筋の引張・コンクリート圧縮試験	2
2	東京の地盤 (地質図・地質断面図の展示ほか)	2
2	地下水位観測機器及び観測データのデモ	2
5	環境にやさしい舗装	1
5	東京の液状化予測図の展示	1
5	公共基準点・水準測量の機器	1
5	勝鬃橋の解説映画	1

また、つまらなかった理由を回答してくれた人は、10 名であり、その回答は

- 説明内容が分かりにくかった (1 名)

などであった。

つまらなかったとされたイベントについては、職員間で話し合い、改善していきたい。

3) その他気づいた点、改善してほしい点、ご意見等

この質問に回答してくれた人は、10名であり、その回答は、

- 一般公開日を増やしてほしい（2名）
- 順路表示を大きくしてほしい（1名）
- 新しいイベント・展示をお願いしたい（毎年同じように感じる）（1名）

などであり、今後に活かすべきコメントをいただいた。

6. おわりに

集客数は、平成25年4月のセンター公開では、一般の方2名だったのが、活性化により、同年11月では、45名、また、平成26年4月では、82名となった。

今後も活性化を継続し、センター公開をより良いイベントとすることが、センターの日常の業務での成果につながり、それがまた、センター公開に活かされるという好循環となるよう、努力していきたい。